野田町熊野神社の田の神舞

【所　在　地】出水市野田町熊陳（野田町田の神舞保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 37 年 10 月 24 日

古くは秋の彼岸に，今は秋のホゼ祭りに，野田町熊陣の人々が熊野神社に奉納する芸能である。

多人数で舞う田の神舞で，高烏帽子に陣羽織姿の田の神と，三吉という道化役が登場する。三吉は仕事着姿で頭に紅白の鉢巻をして後ろに長く垂らす。顔は厚化粧をし，頭はシュロ皮でちょんまげをつける。手にすり鉦を持ち，足は黒足袋をつけている。

続いて大勢の杵回しが２列になって腰をかがめ，手に複雑に曲った木杵を持って，これを回しながら現れる。黒い衣裳を着て，たすきをかけ，額には思い思いの面をつけている。

最後に裾模様の衣裳で女装をした嫁ジョが登場する。杵回しの１人が臼を持ってきて，餅をつき，嫁ジョは手まぜをする。餅がつきあがると嫁ジョはこれをとりあげ，田の神に捧げる。杵回したあとは，争って臼にこびりついた餅をとって食べる。

終ると，田の神を先頭に全員列をつくって退場する。楽は横笛と太鼓，台詞はあるが歌はない。

このような多人数で踊る田の神舞は出水・北薩一帯に点々とみられ，神舞の中のにぎやかで演劇的な芸能であり，一人舞の田の神舞とはちがう芸態をなしている。